

1. 実験の背景

- ヒルクライムを楽しむために箱根峠を訪れるサイクリストが増加傾向
- 急カーブ、狭隘箇所が多数存在し、ドライブ観光の乗用車と街道歩きの歩行者、トレーニングの自転車が輻輳
- 観光期の慢性的な渋滞の発生
- 観光資源として「箱根八里」としての一体的な活用や発信ができていない。

2. 実験の目的

- 「箱根八里」の一体的な周遊観光を促進するため、ロードバイク利用者やレンタルサイクル利用者等、幅広い自転車利用者向けのサイクリングルートの設定。
- 「箱根八里」がサイクリストを受け入れるために必要な施設や案内等の検討。
- 「箱根八里」を訪れるサイクリストの増加を目指し、SNS やHP 等を活用し、発信すべき情報の把握。

3. 検討内容

- 1) 安心、快適な走行空間の創出
 - 路面標示等による自転車走行レーンの明確化
 - サイクルラックや休憩所設置などサイクリストの受入体制の整備
- 2) 自転車での周遊観光ルートマップ作成と情報発信
 - 見どころや危険箇所、サイクルラック設置箇所等を示したサイクリスト向けマップの作成
 - スタンプラリーやモニターツアーなどのイベント等の実施による周遊ルートの設定、観光メニューの検討
 - 各種SNS、HP 等を活用し、箱根八里の魅力、サイクリングルートや休憩場所、道路勾配、気象情報等、「箱根八里」一体としての知名度向上と情報の発信。
- 3) レンタサイクル・サイクルラックバスの導入
 - 「箱根八里」沿道にある施設等にサイクルステーションを設置し、レンタルサイクルの貸出しを行う。
 - 自転車、街歩き、路線バスなど観光客が多様な交通手段を利用して「箱根八里」観光を楽しめる仕組みを構築する。
 - バス車内に自転車ラックを設置し、ロードサイクル利用者の周遊観光を促進する。

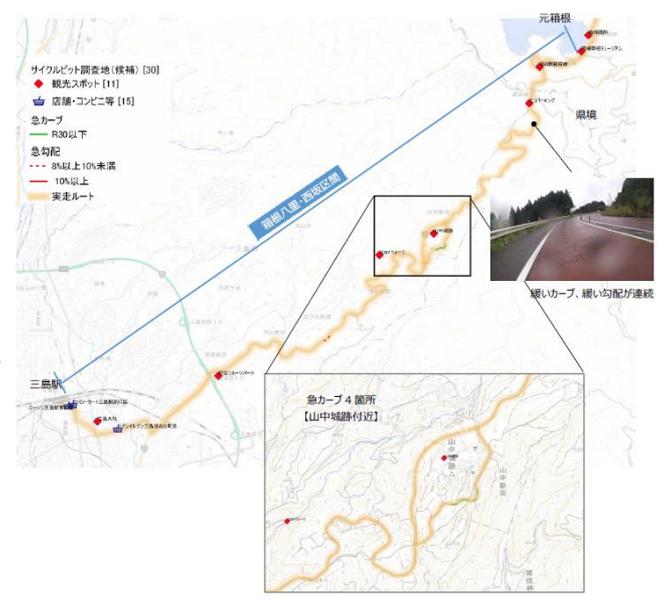


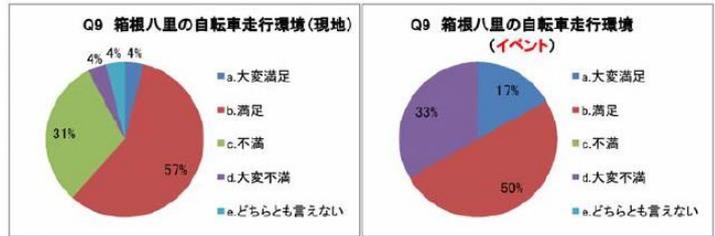
図 実験実施箇所及び断面(平面図)

4. 検討結果

- ①道路状況
 - ・ 小田原～元箱根までは、道路幅が狭く車両の交通や歩行者も多く、自転車が安心して走れる状況ではない。
 - ・ 箱根峠付近は、ルートがわかりにくい。
 - ・ 国道1号箱根西坂までの下り線は、勾配は比較的ゆるいが1車線しかなく、車両スピードも出るため、自転車走行に恐怖を感じる。
- ②サイクリスト向けアンケート調査
 - ・ サイクリストのための休憩機能が不足している。
 - ・ 自転車利用者が求める現地情報(トイレ、駐車場)が不足。
 - ・ 既存のサイクリストは、E バイクに魅力を感じていない。
 - ・ サイクルラックの設置等、サイクリストの受入れ態勢の整備された施設はほぼない。
- ③交通量調査
 - ・ 3 断面では神奈川県道732 号を走行するサイクリストが多かった。
- ④レンタルサイクル事業者ヒアリング
 - ・ 三島スカイウオークは、レンタサイクル事業参入に前向き
 - ・ 勾配が厳しいので電動自転車であればダウンヒルのニーズがある。
 - ・ 欧米の山岳リゾートでe-bike のレンタルが普及しており、箱根八里にも導入が期待できる
- ⑤バス事業者へのヒアリング
 - ・ 車外のサイクルラックはコストが高く導入困難。
 - ・ バス車内に自転車ラック設置の可能性有



図 道路状況調査例



【意見】・危険箇所が多い
 ・道路幅が狭く、大型バスや対向車も多く危険である。

図 箱根八里の走行環境にかかるサイクリストアンケート

5. FS調査より得られた課題

- ①自転車走行ルートが一部不明瞭
- ②急カーブ、急勾配等の危険箇所が点在
- ③車両スピードが上がる区間の恐怖感
- ④「箱根八里」の魅力箇所の周知不足
- ⑤自転車利用者が利用する施設の周知、情報不足
- ⑥大型車両が多く通行する箇所が存在
- ⑦自転車周遊の情報発信、周知不足
- ⑧サイクリストに必要な情報ツール不足
- ⑨自転車利用環境(レンタサイクル)の不足
- ⑩自転車利用時における移動手段(サイクルバス)の不足